

はじめに



池袋は、首都東京の多様な機能集積の一翼を担う副都心として、区民はもとより東京北西部や埼玉方面へ広がる後背圏に暮らす人々の生活や交流を支える拠点です。

そのためのまちづくりとして、昭和53年のサンシャインシティの完成、平成2年前後の東京芸術劇場など池袋駅西口地区の開発、そして平成19年には、区の「中央図書館」や「あうるすぽっと」を整備した東池袋四丁目再開発などがありますが、副都心の役割を担うには十分ではありませんでした。

都心部の街並みが急速に変貌していくなか、池袋のまちづくりは少し遅れた感があります。しかし、その代わりに「気安さ」でイメージされる人間的な魅力が残ったことで、次の時代に向けた価値ある都市づくりをこれから本格的に行うことができる、いわばチャンスを得ているものと考えています。

今後の人口減少と超高齢社会、地球環境問題への対応、さらには社会経済情勢の急激な変化のなかでの価値ある都市づくりとは、安全・快適で活力ある「まち」を築くとともに、文化や環境、健康などの政策課題を積極的に解決していくものでなければなりません。

そのために、平成20年6月の副都心線開業の際に、「文化による賑わいの創出」と「人と環境への優しさ」をコンセプトとする池袋の将来像を「池袋副都心・グランドビジョン」に掲げました。

さらに今後は、区の新庁舎整備や造幣局周辺まちづくりなどのプロジェクトが計画されていますので、区民の皆さんや民間の方々と手をとり合い、池袋の個性を活かしながら次の時代に安心して引き継げる池袋副都心を築いていきたいと考えています。

このガイドプランは、池袋副都心の都市像を「将来イメージ」としてお示しするとともに、都市づくりを進めるにあたって、ご配慮いただきたい事柄を整理しております。区民や街づくりの担い手の方々にご活用していただければ幸いです。

本ガイドプランの策定にあたりましては、「池袋副都心ガイドプラン検討委員会」にご参加くださいました学識委員の皆様に対して改めて感謝申し上げます。また、熱心にご審議くださいました「豊島区都市計画審議会」の委員の皆様や、パブリックコメントで貴重なご意見をお寄せいただきました区民の皆様におかれましても、心からお礼を申し上げます。

平成22年6月

豊島区長

高野之夫